自然の科学的基礎
『文学作品に見る水』

2004 年 2 月 9 日
061595　牛口有理

恋を題材にした作品

崇徳院
『百人一首』より

瀬を早み　岩にせかるる滝川の　われても末に　あはむとぞ思ふ

岩にせき止められた急流が、川の瀬の流れが速いためにいったんは二つにわかれても再び下流でひとつになるように、あなたと私も今は仲を引き裂かれて会えなくても、将来は必ず会って結ばれると思っているよ。

水＝ “ 滝川 ”

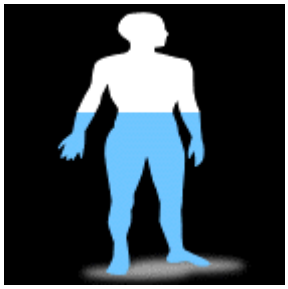
「文化学院蔵」

与謝野晶子
『みだれ髪』

やは肌のあつき血汐に触れも見でさびしからずや道を説く君

わたくしのこのやわらかな肌の下にあつく脈打っている情熱に触れることもしないで社会の道徳や倫理に忠実なあなたは、さびしくはありませんか。

水＝“血汐”＝血液
血液の８３％
脳の７０％～８５％・筋肉の７５％・目の網膜９２％・骨の２２％



体内水分の　2%⇒のどの渇きや痛み
体内水分の　5%⇒幻覚
体内水分の　12%⇒死亡

新生児は体重の約７０％～８０％が水分。　成長するにつれて、 水分の比率は徐々に減っていき、成人男性では体重の約６０％、成人女性は約５５％・老人は約５０％前後。

道浦母都子

大阪は雨　会いにいけざるわたくしとコスモス叩く彩秋の雨
確実に半日遅れ降る雨が大東京のあなたを濡らす

水＝“雨”

生を題材にした作品

寒の水喉ゆっくりすべり落ち生ある者を水は流るる

水＝“水”
1995 年 1 月 17 日。

中城ふみ子

冬の皺よせゐる海よ今少し生きて己の無残を見むか

冬の荒波が皺のように打ち寄せている北の海。その海のように私の心も荒涼としている。だが、いま少し生き長らえて、自分自身の最後を見届けてみようか

水＝“海”

吉本ばなな
「ＳＬＹ」

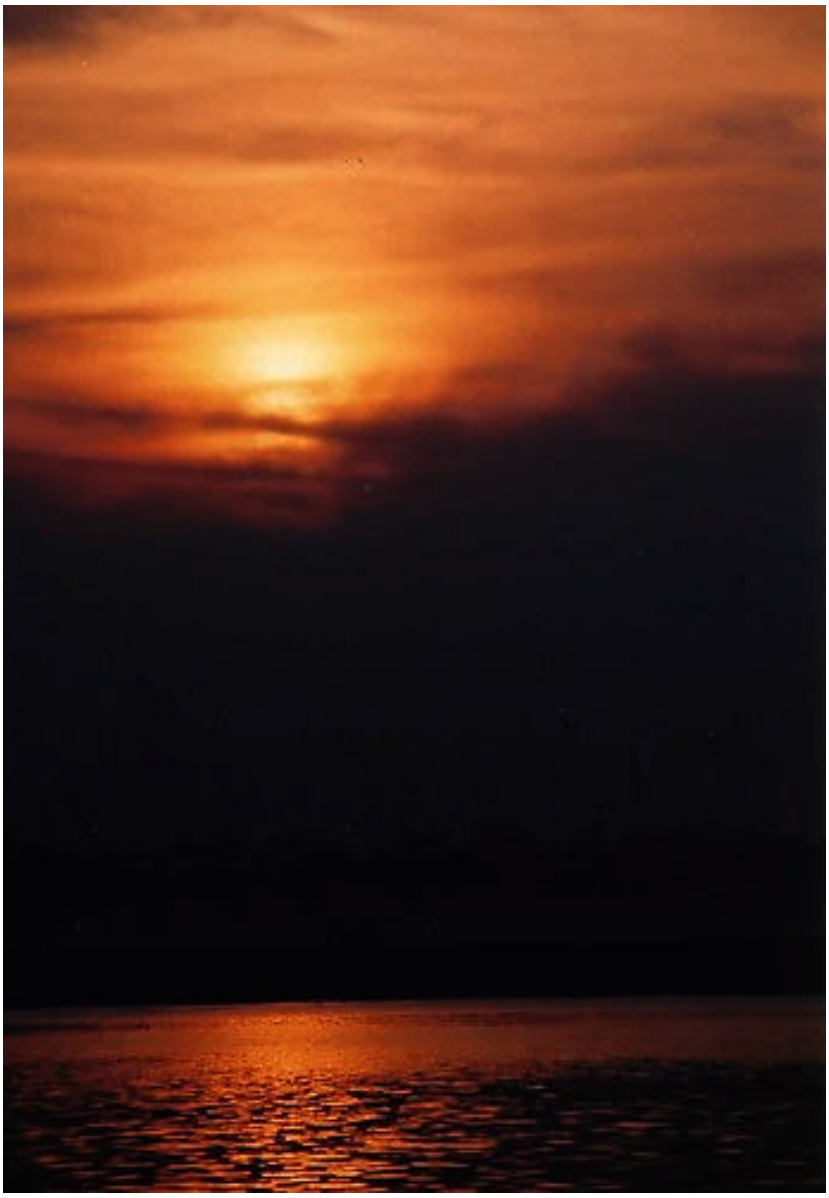
「ナイル川が窓の外に青い蛇になってのたうっている。一面の砂漠の世界に、それだけが生きてはるかに続いている。川の形に見事に沿って、濃い緑が砂漠を彩っている。生命はここからはじまった。そして今もこうして目に見える形でくっきりと色を分けて、生き生きとした質を表現している。この国はこの川を中心に存在している。川は流れ続け、人間をあふれる水の力で生かし続けている。…その景色は確かに、驚くほど明快に生命の流れを表していた。…それは何かが何かを愛しているということを表す絵でもあった（ｐ　69－70)」

水＝“川”

“ 遠藤周作
「ディープ・リバー」

「ガンジス河を見るとき、僕はキリストを考えます。ガンジス河は腐った手を差し出す物乞いの女も殺されたガンジー首相も同じように拒まず一人一人の灰を飲み込んで流れていきます。キリストという愛の河はどんな醜い人間も全て拒まず受け入れて流れます。 」

水＝“ 河 ”



ガンジスの朝日

三島由紀夫
「金閣寺」

「正しく裏日本の海だった！私のあらゆる不幸と暗い思念の源泉、私のあらゆる醜さと力との源泉だった。海は荒れていた。波はつぎつぎとひまなく押し寄せ、今来る波と次の波との間に、なめらかな灰色の深淵をのぞかせた。…この荒涼とした自然は、春の昼下がりの芝生よりも、もっと私の心に媚び、私の存在に親密なものであった。ここで私は自足していた。私は何者にも脅かされていなかった。…『金閣を焼かねばならぬ』　」

水＝“海”

参考文献

遠藤周作　「ディープ・リバー」　講談社文庫　1996
長谷川孝司　「百人一首　おもしろ大辞典」　くもん出版　1988
三島由紀夫　「金閣寺」　新潮文庫　1997
道浦母都子　「夕駅」　河出書房新社　1997
「女歌の百年」　岩波新書　2002
吉本ばなな　「ＳＬＹ　世界の旅②」　幻冬社　2000

与謝野晶子　http://www.for-you.co.jp/akiko/
三島由紀夫　http://www.vill.yamanakako.yamanashi.jp/bungaku/mishima/
日本海　http://www.asahi-net.or.jp/~tp7h-itu/html/so042.html
ガンジス　http://forum.nifty.com/fworld/pictures/india0112/index.htm
ナイル　http://www.rbsaika.com/yashichi/eg002.html